

---

---

## 第2章 食肉の仕入動向

---

---

### 1 食肉仕入動向の概況

食肉小売店における12月1カ月間・1店舗当たりの仕入数量を調査した。特に専門店では卸売を行っている店もあるが、卸売分は除くこととした。また、本調査対象店舗数の東日本と西日本の割合は、全体では66%対34%(前回57%対43%)、専門店では54%対46%(前回34%対66%)、スーパーでは70%対30%(前回59%対41%)、生協では46%対54%(前回83%対17%)となっている。

食肉小売店1店舗あたりの仕入数量は6,508kg(前回6,328kg)で、前回より増加している。これは、回答店舗数が専門店及びスーパーともに増加となったことが一因と考えられるので、留意していただきたい。種類別構成は、牛肉が23.2%(前回17.5%)、豚肉が36.2%(前回46.2%)、鶏肉が40.6%(前回36.2%)であった。前回調査と比べると牛肉と鶏肉が上昇し、豚肉が低下した。

#### 業態別の仕入動向

業態別の仕入数量は、専門店が3,380kg(前回2,036kg)、スーパーが7,163kg(前回6,977kg)、生協が5,060kg(前回5,216kg)となっている。業態による規模の格差が反映されている(表2-1)。

種類別内訳についてみると、専門店では牛肉が34.2%(前回30.6%)、豚肉が39.9%(前回42.5%)、鶏肉が25.9%(前回26.8%)となっており、他の業態と比べて牛肉の割合が高い。スーパーでは牛肉が22.5%(前回17.1%)、豚肉が34.7%(前回46.6%)、鶏肉が42.7%(前回36.3%)となっており、他の業態と比べて鶏肉の割合が高い。生協では牛肉が21.7%(前回14.3%)、豚肉が51.6%(前回39.6%)、鶏肉が26.6%(前回46.1%)となっており、他の業態と比べて豚肉の割合が高い。

表2 - 1 食肉の業態別仕入数量割合（1店舗・1ヵ月当たり）

	平均	専門店	スーパー	生協
回答企業数（社）	626	488	123	15
店舗数（店）	4,674	585	3,686	403
平均仕入数量（kg）	6,508	3,380	7,163	5,060
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0
牛肉	23.2	34.2	22.5	21.7
国産牛肉	14.6	21.7	13.9	16.2
和牛	7.8	15.4	7.3	6.9
乳牛	3.5	1.7	3.4	6.7
その他国産	3.2	4.6	3.2	2.6
輸入牛肉	8.7	12.5	8.6	5.5
アメリカ産	4.6	8.0	4.6	2.0
オーストラリア産	4.0	4.5	4.1	3.5
豚肉	36.2	39.9	34.7	51.6
国産豚肉	30.4	32.8	29.1	44.8
輸入豚肉	5.8	7.1	5.6	6.8
鶏肉	40.6	25.9	42.7	26.6
国産鶏肉	28.3	20.0	29.2	24.8
輸入鶏肉	12.2	5.9	13.5	1.8

注：牛肉・豚肉の枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

表2 - 2 食肉の売上規模別仕入数量割合（1店舗・1ヵ月当たり）

	平均	500万円 未満	500～999 万円	1000～ 1999万円	2000～ 2999万円	3000万円 以上
回答企業数（社）	626	342	115	122	34	13
店舗数（店）	4,674	433	615	2,191	1,182	253
総重量（kg）	6,508	1,368	3,178	6,409	9,579	9,918
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
牛肉	23.2	29.2	25.4	23.8	19.9	32.5
国産牛肉	14.6	24.5	17.6	15.8	11.9	15.2
和牛	7.8	17.1	9.3	8.3	6.2	9.3
乳牛	3.5	4.0	7.3	4.3	2.5	1.1
その他国産	3.2	3.4	1.0	3.3	3.2	4.8
輸入牛肉	8.7	4.7	7.8	8.0	7.9	17.4
アメリカ産	4.6	2.1	4.8	4.5	2.8	14.1
オーストラリア産	4.0	2.6	3.1	3.5	5.2	3.3
豚肉	36.2	47.5	39.1	48.5	24.8	13.8
国産豚肉	30.4	45.0	35.4	40.6	20.9	9.2
輸入豚肉	5.8	2.5	3.7	7.9	3.9	4.6
鶏肉	40.6	23.2	35.5	27.8	55.3	53.7
国産鶏肉	28.3	22.0	34.1	24.7	27.2	50.5
輸入鶏肉	12.2	1.2	1.4	3.0	28.1	3.2

注：牛肉・豚肉の枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

## 売上高規模別の仕入動向

精肉部門の売上高規模別の仕入数量を表2 - 2に示した。総じて売上高規模が大きい階層で輸入肉の割合が高くなる傾向がみられた。

## 地域別の仕入動向

精肉部門の地域別の仕入数量を表2 - 3に示した。牛肉の割合が最も高いのは近畿、次いで北陸・東海、低いのは北海道・東北であった。豚肉の割合が最も高いのは北海道・東北、次いで北陸・東海となっており、低いのは中国・四国であった。鶏肉の割合が最も高いのは中国・四国となっており、最も低いのは北陸・東海であった。

表2 - 3 食肉の地域別仕入数量割合（1店舗・1ヵ月当たり）

	平均	北海道・東北	関東・東山	北陸・東海	近畿	中国・四国	九州
回答企業数（社）	626	68	176	107	117	91	67
店舗数（店）	4,674	567	1,831	675	899	372	330
平均仕入数量（kg）	6,508	5,864	8,311	3,460	6,217	4,823	6,541
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
牛肉	23.2	18.4	20.8	28.7	30.5	25.1	21.3
国産牛肉	14.6	9.3	11.0	18.4	23.9	20.8	14.5
和牛	7.8	5.0	6.9	10.2	12.0	9.5	4.2
乳牛	3.5	3.7	2.4	5.4	3.9	8.5	4.1
その他国産	3.2	0.6	1.7	2.8	8.1	2.8	6.2
輸入牛肉	8.7	9.1	9.8	10.3	6.7	4.3	6.8
アメリカ産	4.6	7.6	4.5	5.7	3.3	2.9	4.4
オーストラリア産	4.0	1.5	5.3	4.6	3.4	1.4	2.4
豚肉	36.2	52.5	32.3	44.0	40.5	17.8	34.3
国産豚肉	30.4	45.8	27.2	38.0	31.9	15.3	30.2
輸入豚肉	5.8	6.7	5.1	6.0	8.7	2.5	4.1
鶏肉	40.6	29.1	46.9	27.3	28.9	57.1	44.4
国産鶏肉	28.3	26.1	25.4	22.7	26.5	56.4	39.7
輸入鶏肉	12.2	3.0	21.5	4.6	2.4	0.7	4.7

注：牛肉・豚肉の枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

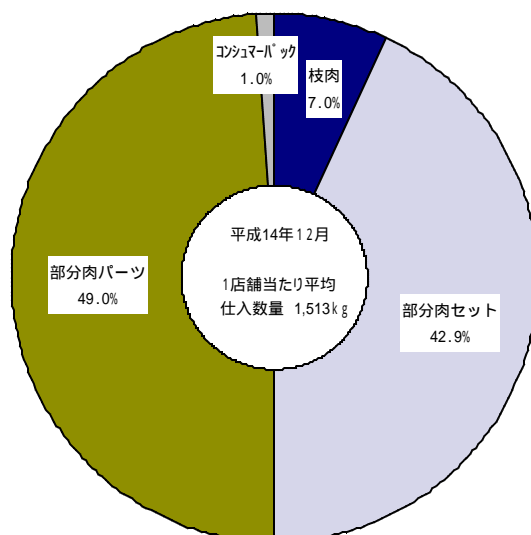
## 2 牛肉の仕入動向

### (1)牛肉の仕入構成

#### 形態別仕入構成

牛肉の形態別仕入割合は、食肉小売店全体では部分肉パーツが49.0%(前回68.5%)、部分肉セットが42.9%(前回27.6%)となっており、部分肉パーツ及びセットでの仕入れが主体となっている。また、枝肉は7.0%(前回2.8%)、コンシューマーパック<sup>注1</sup>は1.0%(前回1.2%)であった(図2-1)。ここでいうコンシューマーパックは、他社からの仕入れに限定したので留意していただきたい。

図2-1 牛肉の形態別仕入割合

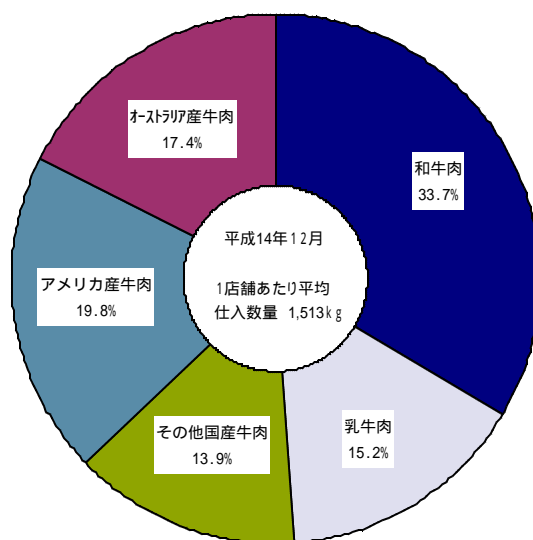


注1) 本調査は、本社あるいは本部に対し、形態別仕入数量を調査したものである。自社でコンシューマーパックを店舗以外の場所で一括して製造する場合、仕入れ形態は部分肉が主体となり、コンシューマーパック仕入には含めていない。なお、コンシューマーパックは自社あるいは系列での取り組みが多くみられ、その割合は、牛肉全体の21.9%であった。業態別にみると、専門店が11.3%、スーパーが23.3%、生協が19.6%であった。

## 種類別仕入構成

牛肉の種類別仕入割合は、食肉小売店全体では和牛肉が 33.7 % ( 前回 25.5 % )、アメリカ産牛肉が 19.8 % ( 前回 27.4 % )、オーストラリア産牛肉が 17.4 % ( 前回 23.1 % )、乳牛肉が 15.2 % ( 前回 17.3 % )、その他国産牛肉が 13.9 % ( 前回 6.6 % ) であった。なお、国産と輸入の割合は、63 % 対 37 % ( 前回 49 % 対 51 % ) と前回と異なり国産牛肉が輸入牛肉を上回った。

図 2 - 2 牛肉の種類別仕入割合



## 和牛肉

1 店舗当たりの平均仕入数量は 510kg ( 前回 283kg ) であった。形態別内訳は部分肉セットが 47.7 % ( 前回 51.5 % ) と最も高く、次いで、部分肉パーツが 37.3 % ( 前回 40.8 % )、枝肉が 14.4 % ( 前回 7.1 % )、コンシューマーパックが 0.6 % ( 前回 0.7 % ) であった。

専門店では 1 店舗当たり平均仕入数量は 522kg ( 前回 339kg ) で形態別にみると枝肉が 50.1 % ( 前回 40.1 % )、部分肉パーツが 26.9 % ( 前回 41.5 % )、部分肉セットが 23.0 % ( 前回 18.1 % ) となっており、枝肉の割合が他業態と比べて高い。スーパーでは 1 店舗当たり平均仕入数量は 525kg ( 前回 282kg ) で、形態別にみると部分肉セットが 54.3 % ( 前回 56.8 % )、部分肉パーツが 35.7 % ( 前回 40.8 % )、枝肉は 9.6 % ( 前回 1.6 % )、コンシューマーパックは 0.4 % ( 前回 0.8 % ) であった。生協では 1 店舗当たり平均仕入

数量は 351kg（前回 126kg）で形態別にみると部分肉パーツが 81.4 %（前回 34.5 %）で最も高く、次いで、部分肉セットが 11.0 %（前回 64.6 %）となっている。以上のように、業態により仕入形態が大きく異なっている（表 2 - 4）。

表 2 - 4 和牛肉の仕入状況（1店舗当たり）

	平均	専門店	スーパー	生協
仕入企業数（社）	524	401	110	13
店舗数（店）	4,226	477	3,370	379
平均仕入数量(kg)	510	522	525	351
総計（%）	100.0	100.0	100.0	100.0
枝肉	14.4	50.1	9.6	2.8
部分肉セット	47.7	23.0	54.3	11.0
部分肉パーツ	37.3	26.9	35.7	81.4
コンシューマパック	0.6	0.0	0.4	4.8

注：枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

## 乳牛肉

1 店当たりの平均仕入数量は 230kg（前回 192kg）であった。形態別内訳は部分肉パーツが 48.0 %（前回 58.9 %）、次いで部分肉セットが 44.2 %（前回 34.1 %）、以下、枝肉が 6.2 %（前回 4.5 %）、コンシューマパックが 1.6 %（前回 2.4 %）となっている。乳牛肉は和牛肉と比べて部分肉パーツ流通が主体となっている。

専門店では 1 店舗当たり平均仕入数量は 58kg（前回 38kg）とかなり少ない。形態別にみると部分肉パーツが 59.4 %（前回 60.2 %）、部分肉セットが 28.2 %（前回 8.4 %）、枝肉が 12.2 %（前回 31.3 %）であった。スーパーでは 1 店舗当たり平均仕入数量は 245kg（前回 206g）であった。形態別にみると部分肉パーツが 46.3 %（前回 58.0 %）、部分肉セットが 46.1 %（前回 36.2 %）等となっている。生協では 1 店舗当たり平均仕入数量は 339kg（前回 388kg）で形態別にみると部分肉パーツが 56.9 %（前回 70.1 %）、部分肉セットが 35.7 %（前回 17.3 %）等となっている（表 2 - 5）。

表2 - 5 乳牛肉の仕入状況（1店舗当たり）

	平均	専門店	スーパー	生協
仕入企業数（社）	160	82	65	13
店舗数（店）	2,920	125	2,416	379
平均仕入数量(kg)	230	58	245	339
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0
枝肉	6.2	12.2	6.6	2.1
部分肉セット	44.2	28.2	46.1	35.7
部分肉パーツ	48.0	59.4	46.3	56.9
コンシューマーパック	1.6	0.1	1.1	5.4

注：枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

### その他国産牛肉

1店舗当たり平均仕入数量は210kg（前回74kg）であった。形態別内訳は部分肉パーツが53.4%（前回46.7%）、部分肉セットが39.3%（前回48.9%）、枝肉が6.3%（前回2.6%）となっている。

専門店では1店舗当たり平均仕入数量は156kg（前回44kg）で、形態別にみると部分肉セットが47.4%（前回10.7%）、部分肉パーツが46.2%（前回79.9%）、枝肉が6.5%（前回11.5%）となっている。スーパーでは1店舗当たり平均仕入数量228kg（前回78kg）で、形態別にみると部分肉パーツが52.7%（前回44.7%）、部分肉セットが39.5%（前回51.3%）、枝肉が6.7%（前回2.0%）となっている。生協では1店舗当たり平均仕入数量は131kg（前回76kg）で形態別では部分肉パーツが77.2%、部分肉セットが22.8%等となっている（表2 - 6）。

表2 - 6 その他国産牛肉の仕入状況（1店舗当たり）

	平均	専門店	スーパー	生協
仕入企業数（社）	125	72	48	5
店舗数（店）	2,043	94	1,693	256
平均仕入数量(kg)	210	156	228	131
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0
枝肉	6.3	6.5	6.7	0.0
部分肉セット	39.3	47.4	39.5	22.8
部分肉パーツ	53.4	46.2	52.7	77.2
コンシューマーパック	1.0	-	1.1	0.0

注：枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

## アメリカ産牛肉

1 店舗当たり平均仕入数量は 300kg（前回 304kg）であった。形態別内訳は部分肉パーツ仕入が 68.3 %（前回 91.4 %）を占めている。アメリカ産牛肉の輸入は部分肉パーツが主体である。

業態別についてみると、専門店では 1 店舗当たり平均仕入数量 271kg（前回 97kg）、スーパーでは 1 店舗当たり平均仕入数量 327kg（前回 343kg）、生協では 1 店舗当たり平均仕入数量 100kg（前回 47kg）で概ねパーツ仕入主体となっている（表 2 - 7）。

表 2 - 7 アメリカ産牛肉の仕入状況（1 店舗当たり）

	平均	専門店	スーパー	生協
仕入企業数（社）	210	111	89	10
店舗数（店）	3,535	165	3,037	333
平均仕入数量(kg)	300	271	327	100
総計（%）	100.0	100.0	100.0	100.0
枝肉	0.4	0.2	0.5	0.0
部分肉セット	29.6	4.1	33.5	12.4
部分肉パーツ	68.3	95.7	64.7	67.7
コンシューマパック	1.7	-	1.3	19.9

注：枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

## オーストラリア産牛肉

1 店当たり平均仕入数量は 263kg（前回調査 257kg）であった。形態別内訳は部分肉セットが 50.5 %（前回 14.2 %）を占め、次いで部分肉パーツが 47.3 %（前回 85.2 %）等となっている。オーストラリア産牛肉はセット輸入が主体であるため、アメリカ産牛肉と比べて部分肉セットの割合が高い（表 2 - 8）。

業態別についてみると専門店では 1 店舗当たり平均仕入数量 151kg（前回 107kg）、スーパーでは 1 店舗当たり平均仕入数量 290kg（前回 285kg）、生協では 1 店舗当たり平均仕入数量 178kg（前回 100kg）であった。国別内訳についてみると、専門店とスーパーではアメリカ産牛肉がオーストラリア産より多いのに対し、生協ではオーストラリア産牛肉が多い。



表2 - 8 オーストラリア産牛肉の仕入状況（1店舗当たり）

	平均	専門店	スーパー	生協
仕入企業数（社）	192	105	76	11
店舗数（店）	3,351	134	2,853	364
平均仕入数量(kg)	263	151	290	178
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0
枝肉	1.5	0.4	1.6	0.0
部分肉セット	50.5	28.6	50.6	76.7
部分肉パーツ	47.3	71.0	47.0	23.3
コンシューマーパック	0.7	-	0.8	0.0

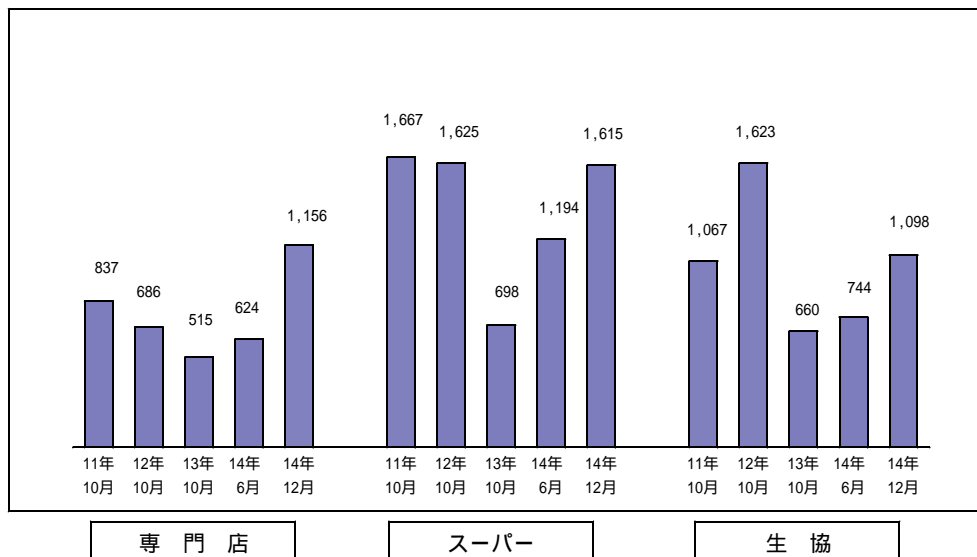
注：枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

## (2)業態別にみた牛肉の仕入構成

業態別の1店舗当たり平均仕入数量（12月・1カ月）は、専門店が1,156kg、スーパーが1,615kgであった（図2 - 3）。過去からの推移をみると、専門店、スーパーともに平成13年10月以降は増加に転じており、今回調査では大幅に増加している。

図2 - 3 牛肉の仕入数量の推移（1カ月・1店舗当たり）

単位：kg



## 専門店

専門店における牛肉の形態別仕入構成の推移を図2-4に示した。部分肉パーツが53.0%（前回62.5%）、枝肉が24.2%（前回24.5%）、部分肉セットが22.8%（前回12.9%）であった。部分肉セットの割合が上昇し、部分肉パーツが低下している。

次に専門店における牛肉の種類別仕入構成の推移を図2-5に示した。和牛肉が45.1%（前回54.3%）と最も高く、アメリカ産牛肉が23.4%（前回15.5%）、その他国産牛肉が13.5%（前回7.0%）、オーストラリア産牛肉が13.0%（前回17.1%）、乳牛肉が5.0%（前回6.1%）であった。

図2-4 専門店における牛肉の仕入構成の推移（形態別）

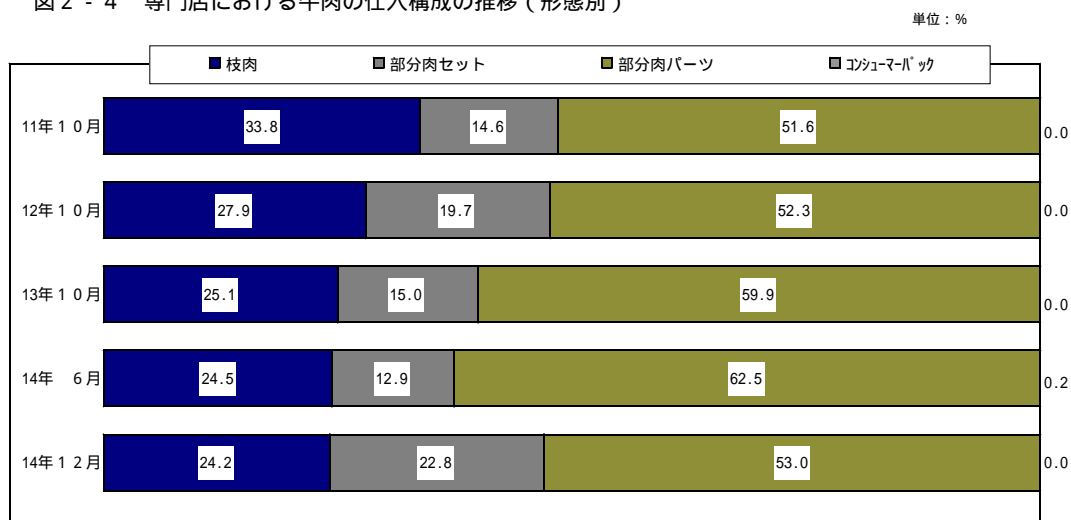
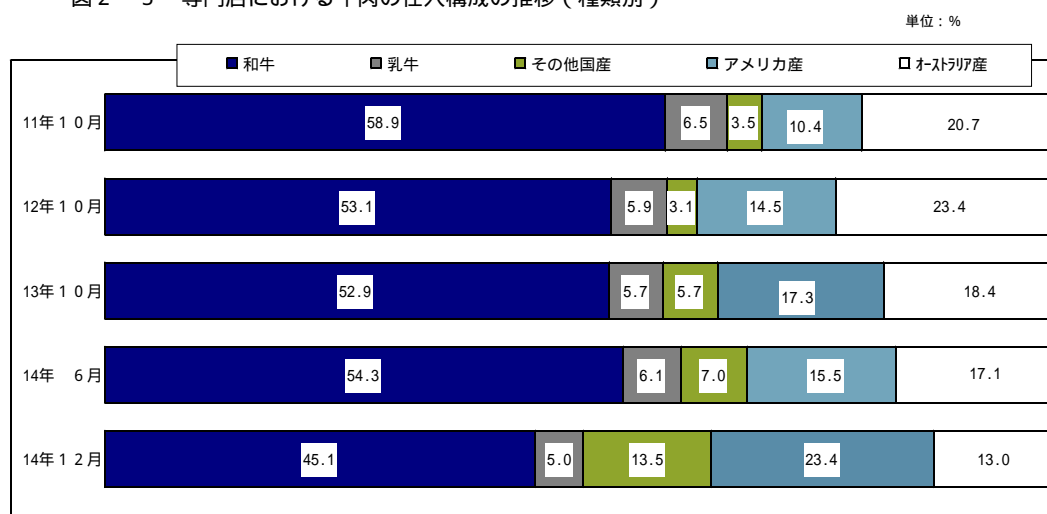


図2-5 専門店における牛肉の仕入構成の推移（種類別）



注：平成10年10月調査のその他国産牛肉は乳牛を含む。

## スーパー

スーパーにおける牛肉の形態別仕入構成の推移を図2 - 6に示した。部分肉パーツが47.6%（前回69.2%）を占め、部分肉セットが46.1%（前回28.5%）、以下、枝肉5.5%（前回1.1%）、コンシューマーパックが0.9%（前回1.3%）となっている。ほぼ部分肉での仕入となっている。

次にスーパーにおける牛肉の種類別仕入構成の推移を図2 - 7に示した。和牛肉が32.5%（前回23.6%）で最も高く、次いでアメリカ産牛肉が20.2%（前回28.8%）、オーストラリア産が18.0%（前回23.8%）、乳牛肉が15.2%（前回17.2%）、その他国産牛肉が14.1%（前回6.5%）であった。過去の推移をみると、14年6月にかけて輸入牛肉の増加が著しくなっていたが、今回調査では輸入牛肉は国産牛肉を下回った。

図2 - 6 スーパーにおける牛肉の仕入構成の推移（形態別）

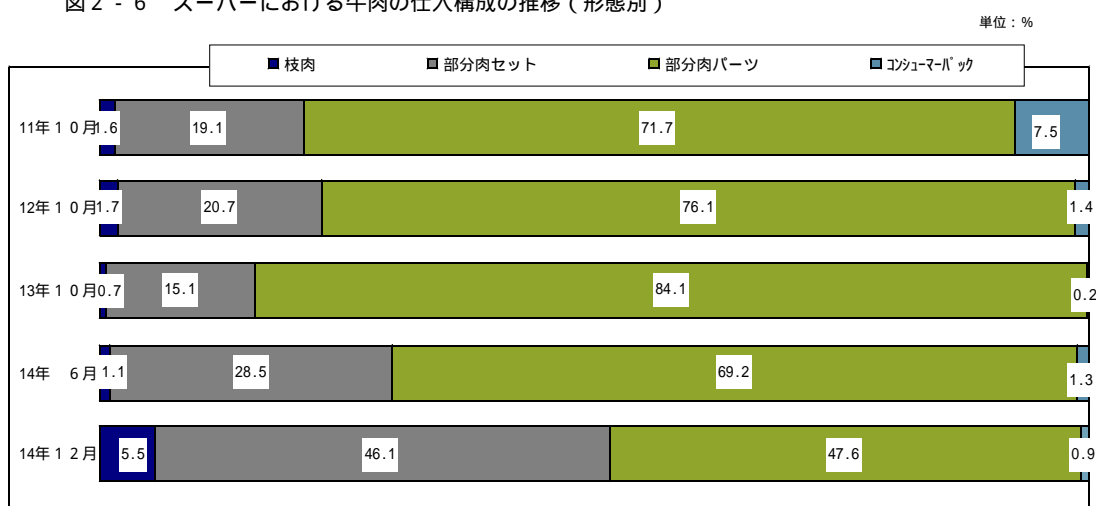
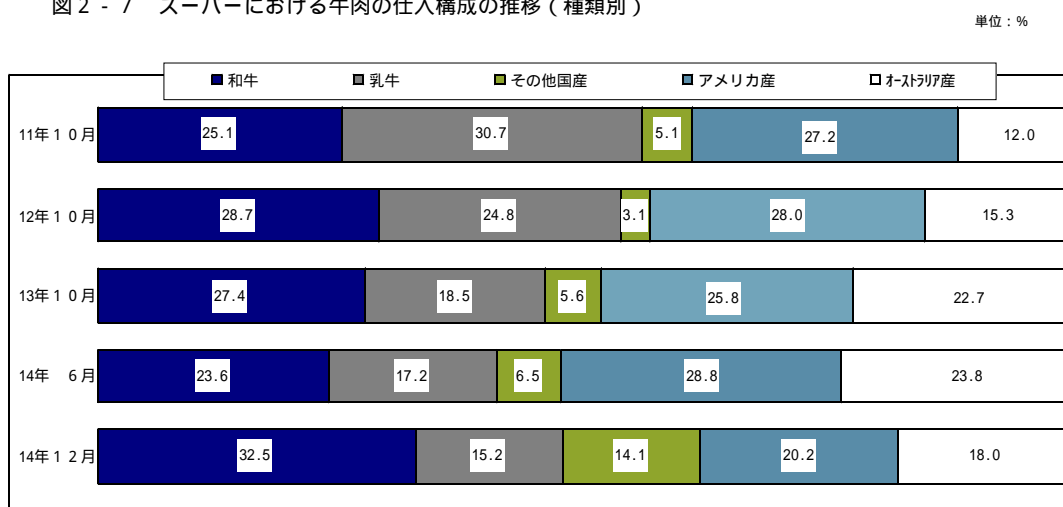


図2 - 7 スーパーにおける牛肉の仕入構成の推移（種類別）



注：平成10年10月調査のその他国産牛肉は乳牛を含む。

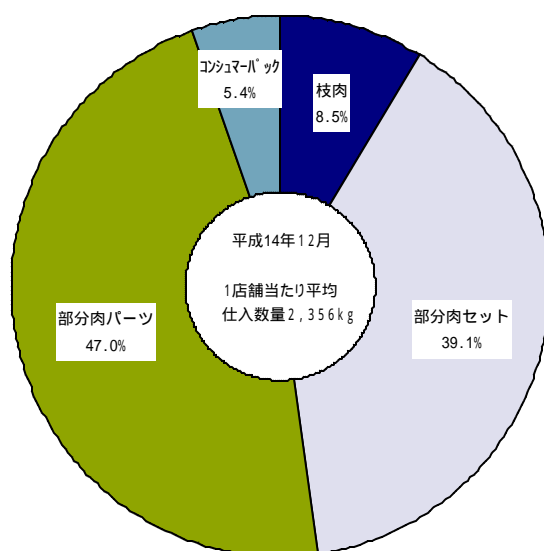
### 3 豚肉の仕入動向

#### (1)豚肉の仕入構成

##### 形態別仕入構成

豚肉の形態別仕入割合を図2 - 8に示した。食肉小売店全体では部分肉パーツが47.0%（前回66.1%）、部分肉セットが39.1%（前回25.2%）、枝肉が8.5%（前回2.1%）、コンシューマーパック<sup>注2</sup>が5.4%（前回6.6%）であった。豚肉の仕入形態は牛肉同様に部分肉が主流となっており、セット仕入の割合も比較的高い。

図2 - 8 豚肉の形態別仕入割合

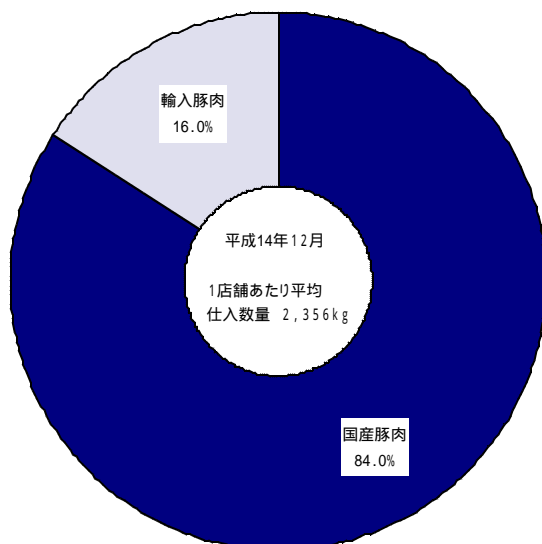


注2) 本調査は、本社あるいは本部に対し、形態別仕入数量を調査したものである。自社でコンシューマーパックを店舗以外の場所で一括して製造する場合、仕入れ形態は部分肉が主体となり、コンシューマーパック仕入には含めていない。なお、コンシューマーパックは自社あるいは系列での取り組みが多くみられ、その割合は、豚肉全体の33.6%であった。業態別にみると、専門店が13.2%、スーパーが36.8%、生協が22.7%であった。

## 国産輸入別仕入構成

豚肉の国産と輸入についての仕入割合を図2 - 9に示した。食肉小売店全体では国産豚肉が84.0%（前回83.1%）、輸入豚肉が16.0%（前回16.9%）となっている。

図2 - 9 豚肉の種類別仕入割合



## 国産豚肉

1店当たりの平均仕入数量は1,980kg（前回2,430kg）となっている。形態別内訳は部分肉セット及び部分肉パーツがともに43.1%（前回61.6%）で最も高く、コンシューマーパックが4.8%（前回6.9%）、枝肉が8.9%（前回2.5%）であった。

専門店では1店舗当たり平均仕入数量1,108kg（前回692kg）で形態別にみると部分肉パーツが39.3%（前回50.0%）、枝肉が33.0%（前回37.4%）、部分肉セットが27.7%（17.1%）等となっている。専門店では枝肉が比較的高い。スーパーでは1店舗当たり平均仕入数量2,087kg（前回2,693kg）で形態別にみると部分肉セットが47.3%（前回63.6%）、部分肉パーツが43.2%（前回31.3%）等となっている。生協では1店舗当たり平均仕入数量2,267kg（前回1,983kg）で形態別にみると部分肉パーツが45.7%（前回87.2%）、枝肉が31.0%（前回0.0%）、部分肉セットが19.3%（前回11.8%）等となっている。

以上、業態によって形態別構成比が大きく異なっている（表2 - 9）。

表 2 - 9 国産豚肉の仕入状況（1店舗当たり）

	平均	専門 小売店	スーパー	生協
仕入企業数（社）	531	409	109	13
店舗数（店）	4,214	486	3,349	379
平均仕入数量(kg)	1,980	1,108	2,087	2,267
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0
枝肉	8.9	33.0	4.3	31.0
部分肉セット	43.1	27.7	47.3	19.3
部分肉パーツ	43.1	39.3	43.2	45.7
コンシューマパック	4.8	-	5.3	4.0

注：枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

### 輸入豚肉

1店舗当たりの平均仕入数量は376g（前回494kg）であった。形態別内訳は部分肉パーツが67.2%（前回88.3%）を占め部分肉パーツが主体となっている。業態別では専門店が1店舗当たり平均仕入数量240kg（173kg）、スーパーは1店舗当たり平均仕入数量401kg（前回557kg）、生協は1店舗当たり平均仕入数量346kg（前回84kg）で生協では大幅に増加している（表2-10）。

表 2 - 10 輸入豚肉の仕入状況（1店舗当たり）

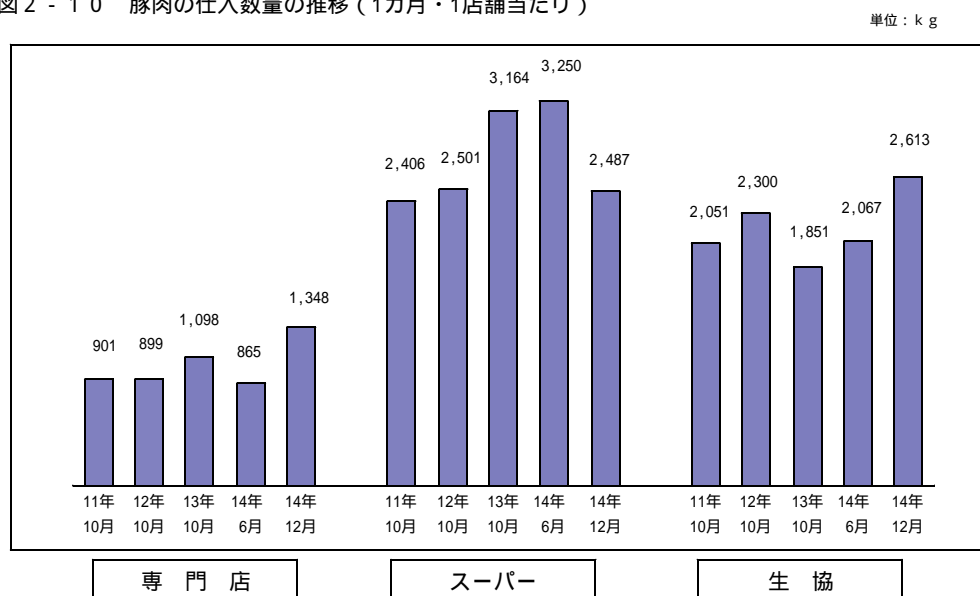
	平均	専門 小売店	スーパー	生協
仕入企業数（社）	208	115	85	8
店舗数（店）	3,628	173	3,121	334
平均仕入数量(kg)	376	240	401	346
総計（％）	100.0	100.0	100.0	100.0
枝肉	6.3	0.3	0.3	75.3
部分肉セット	18.2	26.8	18.6	4.3
部分肉パーツ	67.2	72.9	71.2	18.9
コンシューマパック	8.4	-	9.8	1.4

注：枝肉は部分肉ベース（歩留まり70%）として換算

## (2)業態別にみた豚肉の仕入構成

業態別の1店舗当たり平均仕入数量は、専門店が1,348kg、スーパーが2,487kgであった。過去からの推移をみると、スーパーでは前回まで増加傾向であったが、今回は減少した(図2-10)。

図2-10 豚肉の仕入数量の推移(1カ月・1店舗当たり)



### 専門店

専門店における豚肉の形態別仕入構成の推移を図2-11に示した。部分肉パーツが45.3%(前回59.0%)、枝肉が27.2%(前回26.4%)、部分肉セットが27.5%(前回14.5%)となっており、牛肉同様に枝肉の割合が他の業態と比べて高いのが特徴である。過去の推移をみると、部分肉セットの上昇、部分肉パーツの低下がみられる。部分肉流通の構成が変化している状況がうかがえる。

次に、専門店における豚肉の国産と輸入についての仕入構成の推移を図2-12に示した。国産豚肉が82.2%(前回80.0%)、輸入豚肉が17.8%(前回20.0%)となっている。輸入の上昇傾向に歯止めが掛かりつつある。

図2 - 1 1 専門店における豚肉の仕入構成の推移（形態別）

単位：%

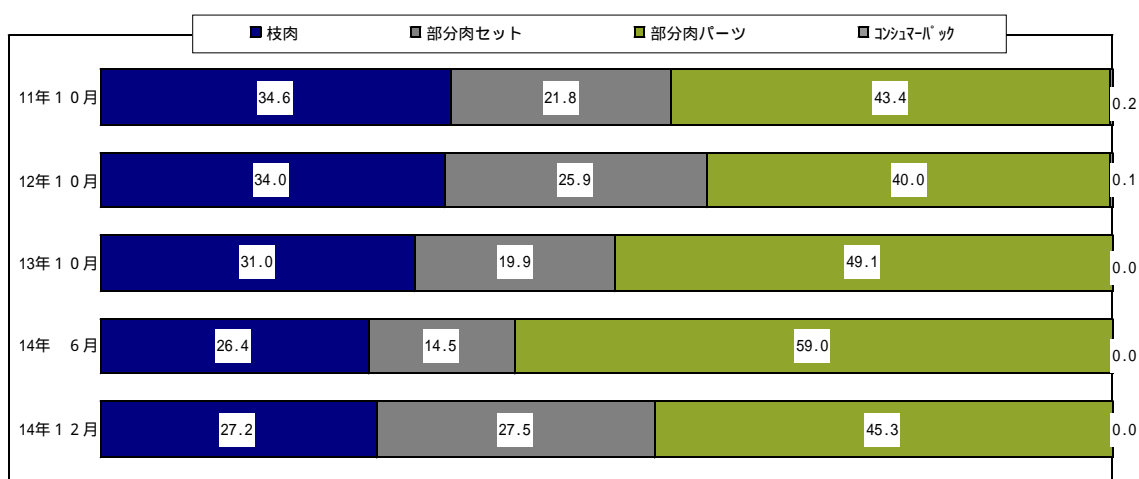
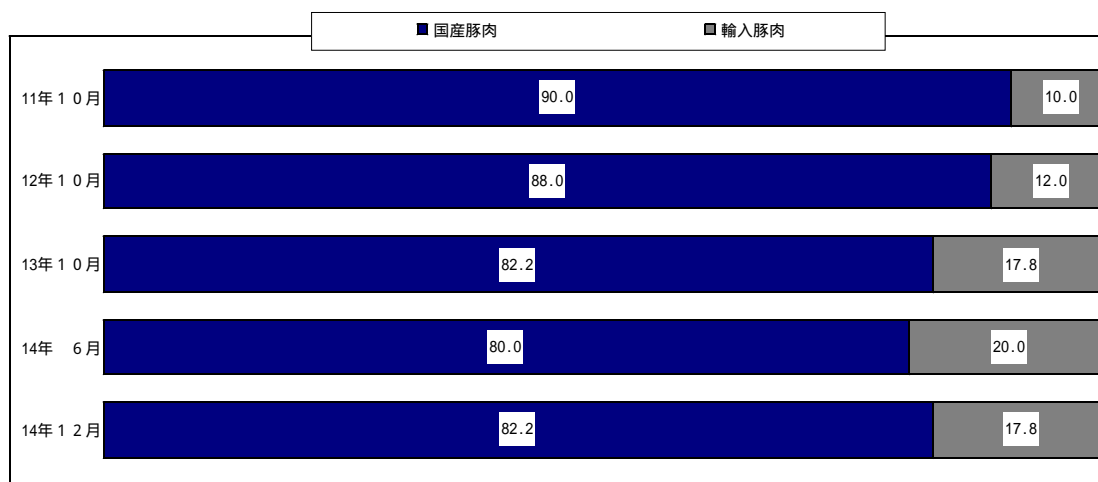


図2 - 1 2 専門店における豚肉の仕入構成の推移（国産・輸入別）

単位：%



### スーパー

スーパーにおける豚肉の仕入形態別構成の推移は図2 - 1 3 に示した。部分肉パーツが47.7%（前回67.8%）、部分肉セットが42.7%（前回23.9%）、コンシューマパックが6.0%（前回7.0%）、枝肉が3.6%（前回1.2%）であった。部分肉流通が主体で、その構成もセットでの流通が増えている。

スーパーにおける豚肉の国産と輸入についての仕入構成の推移を図2 - 1 4 に示した。国産豚肉83.9%（前回82.9%）、輸入豚肉が16.1%（前回17.1%）となっている。



図2 - 1 3 スーパーにおける豚肉の仕入構成の推移（形態別）

単位：%

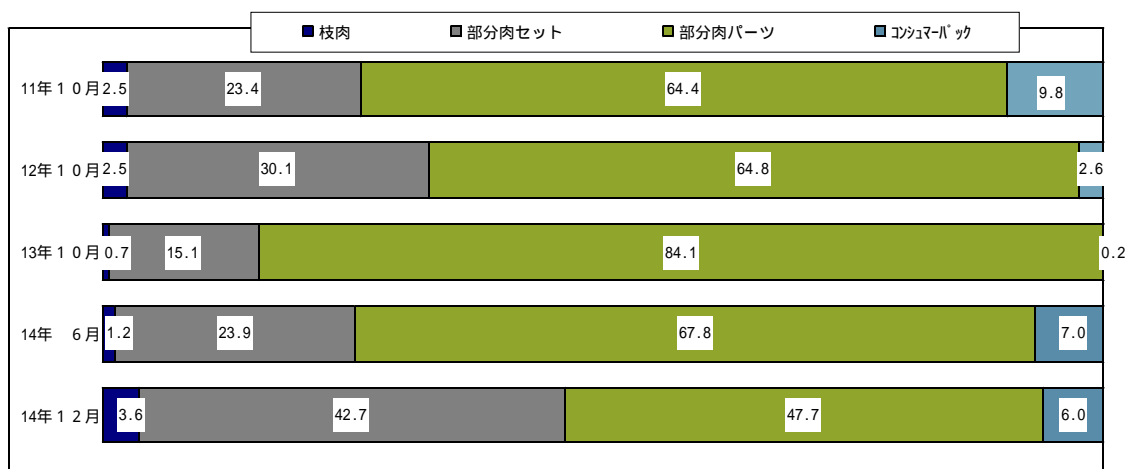
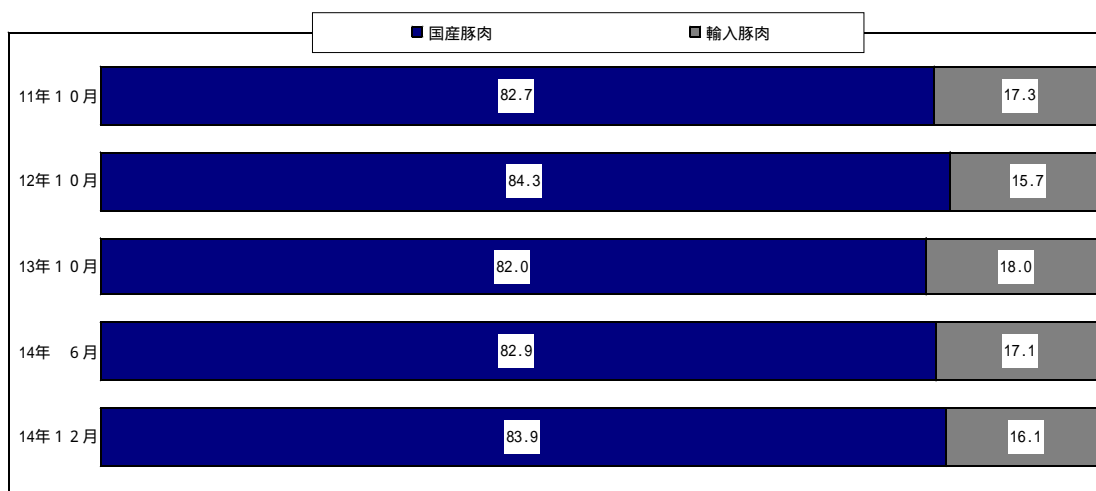


図2 - 1 4 スーパーにおける豚肉の仕入構成の推移（国産・輸入別）

単位：%

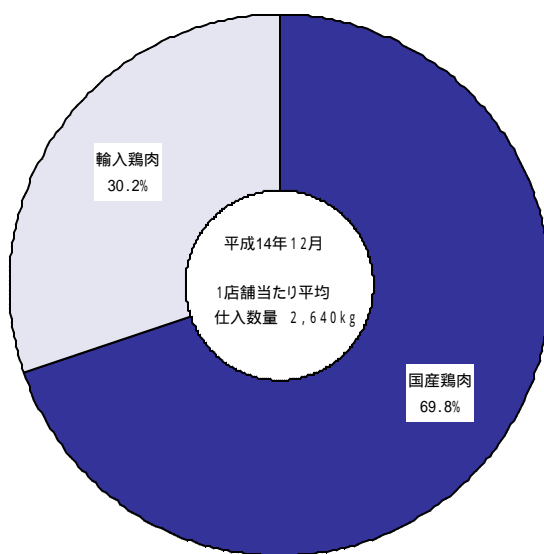


## 4 鶏肉の仕入動向

### (1)国産輸入別仕入数量

鶏肉の国産と輸入についての仕入割合を図2 - 15に示した。食肉小売店全体では国産鶏肉が69.8%（前回86.5%）、輸入鶏肉が30.2%（前回13.5%）であった。輸入の割合が増加している。

図2 - 15 鶏肉の国産・輸入別仕入割合

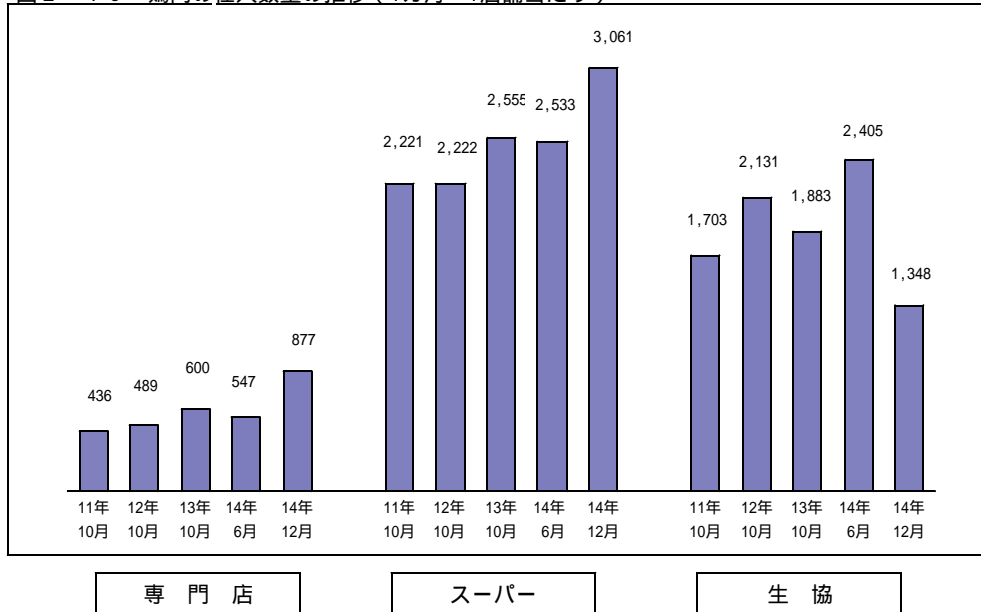


### (2)業態別にみた鶏肉の仕入構成

業態別の1店舗当たり平均仕入数量は、専門店が877kg、スーパーが3,061kgであった（図2 - 16）。専門店ではかなり少ない。過去の推移をみると、スーパーでは増加傾向となっている。

図2 - 16 鶏肉の仕入数量の推移（1カ月・1店舗当たり）

単位：kg



### 専門店

専門店における鶏肉の国産品と輸入品の仕入構成の推移を図2 - 17に示した。国産鶏肉が77.1%（前回82.7%）、輸入鶏肉が22.9%（前回17.3%）となっている。今回の調査では専門店はスーパーより輸入品の割合が低くなった。

### スーパー

スーパーにおける鶏肉の国産品と輸入品の仕入構成の推移を図2 - 18に示した。国産鶏肉が68.4%（前回86.3%）、輸入鶏肉が31.6%（前回13.7%）であった。過去からの推移をみると、輸入鶏肉の割合が大幅に上昇した。

### 生協

生協における鶏肉の国産品と輸入品の仕入構成の推移を図2 - 19に示した。国産鶏肉が93.2%（前回95.1%）、輸入鶏肉が6.8%（前回4.9%）であった。生協では他の業態と比べて輸入鶏肉の割合が低くなっている。

図2 - 17 専門店における鶏肉の仕入構成の推移（国産・輸入別）

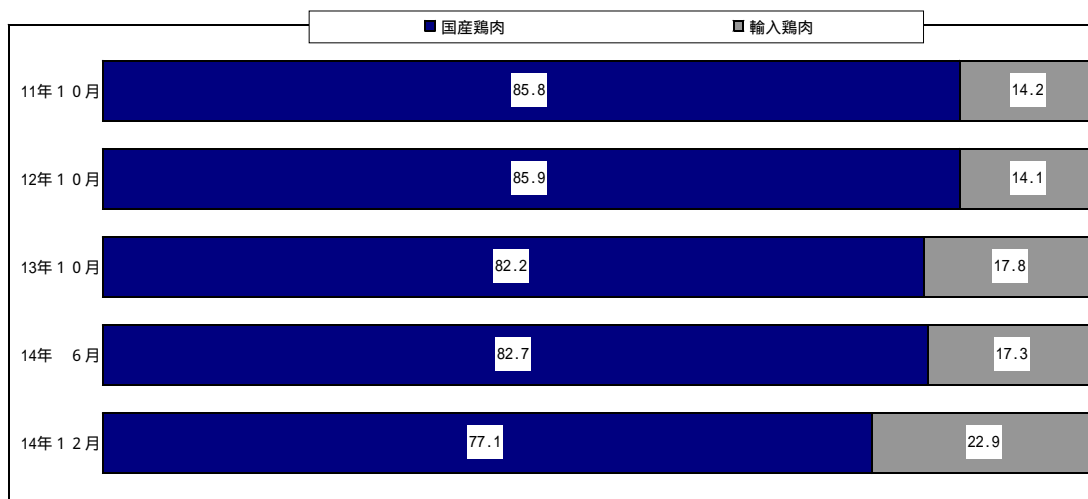


図2 - 18 スーパーにおける鶏肉の仕入構成の推移（国産・輸入別）

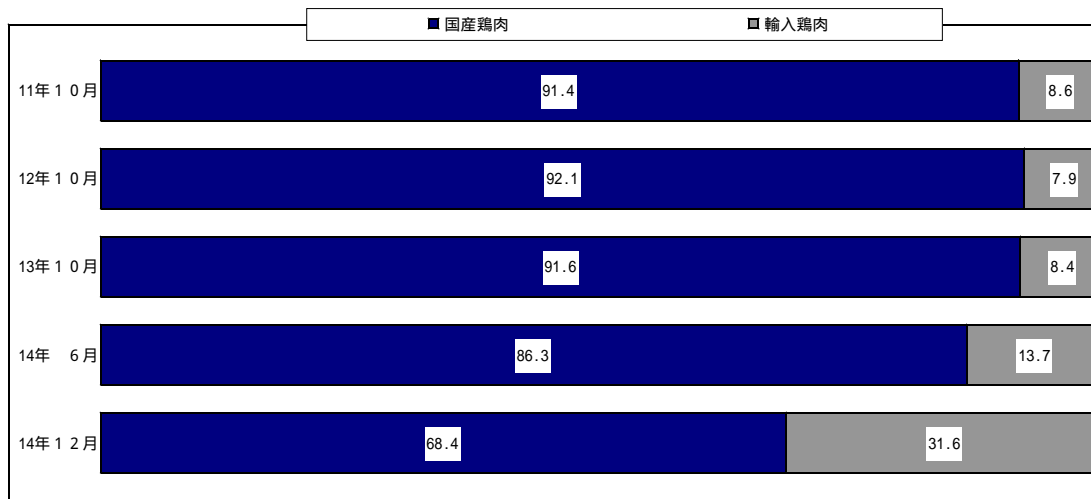


図2 - 19 生協における鶏肉の仕入構成の推移（国産・輸入別）

